

メッセージ：神様の正しい時に

メリークリスマス

私はこのメッセージの多くを、イエス様の使徒がガラテヤ（現在のトルコに位置する）のクリスチャンに宛てて書いた手紙に焦点を当てたいと思います。紀元 49 年頃に書かれました。

ガラテヤ人への手紙 4章 3節-5節

3キリストが来られるまでは、私たちもそれとよく似た立場にありました。ユダヤ教の戒律や規則によって救われると考えて、その奴隷となっていたのです。

4しかし、定めの時が来ると、神様は自分のひとり子を、一人の女から生まれさせ、ユダヤ人として律法の下にお遣わしになりました。

5それは、律法の奴隷になっていた私たちを買い戻して自由の身とするためであり、神の子どもとして迎えてくださるためなのです。

4しかし、定めの時が来ると、神様は自分のひとり子を、一人の女から生まれさせ、ユダヤ人として律法の下にお遣わしになりました。

時宜にかなったクリスマス・プレゼント

私たちの人生における多くのことは、“適切な時期”によって影響されます。数日前、ここ大阪の梅田駅では、クリスマス・シーズンの特売に多くの買い物客が並んでいるのを見かけました。しかし、それ以上に、プレゼントは色とりどりの紙に包まれ、その特別な日までに用意されなければなりません。2022年12月、妻と私はアメリカにいる2人の孫へのクリスマスプレゼントを探しに、巨大なキューズモールに出かけました。それがまた新たな時間的プレッシャーになります。これらのプレゼントはクリスマスの日までにアメリカのモンタナ州に到着するように郵送しなければなりませんでした。どの社会でも、特に

日本では、医者や歯医者予約時間に遅れた患者には、ほとんど容赦しません。常に真実とは限らないが、「タイミングがすべて！」という表現は、地球上の私たちの生活の多くに当てはまります。ガラテヤ人への手紙4章5節は律法（この世の基本的な霊的指針）の奴隷について述べています。時間的なプレッシャーは単に人生の事実であり、霊的指針ではありません。しかし、天地の神様は、時間を含むあらゆる手段を用いて、ご自身の愛を人類にもたらしめます。

時宜にかなった侵攻

いつの時代も、人間の歴史は国家間の勢力争いに満ちています。このような戦争は、国家指導者のエゴや傲慢なプライドが動機となっていることが大抵です。神様はこのような戦争をも用いて、栄光と美に包まれた御子、平和の君、幼子イエス様というクリスマスの贈り物を準備されました…。紀元前315年頃、アレキサンダー大王はギリシャを率いて、既知の世界のほとんどすべてを征服しました。彼の征服はギリシャからエジプトの大部分、南アジアのパンジャブ地方にまで及びました。征服された国々は、複数の違う言葉の国々でしたがビジネスのために正確なギリシャ語を採用しました。これにより、ギリシャ語の支配下にあった世界で世界貿易が促進されました。これはマケドニア帝国と呼ばれました。後にローマ帝国がマケドニア帝国を征服した際も、住民はギリシャ語のビジネス言語を維持していました。ローマ人の言語であるラテン語は扱いにくく、曖昧でした。これは、福音書、すなわち御子イエス様の良い知らせの執筆者たちに、これまでに知られている中で最も正確な言語を与えるという神様のご計画でした。神様の無限の知恵と力は、ローマのマケドニア帝国征服にも見られます。イエス様の十字架による死は、紀元前1400年頃にイスラエル人に与えられた神様の律法を成就させました。ギリシャ人ではなくローマ人は、犯罪者を十字架の梁に釘付けにして木に吊るす十字架刑で処刑しました。使徒パウロは、ガラテヤの人への手紙<ガラテヤ3章13節>の中で、次のように述べています。しかし自分の悪い行いのために、私たちが受けなければならないはずののろいを、キリストはご自分の身に引き受け、私たちが律法ののろいから救い出してくださいました。聖書に、「木にかけられる者はだれでも、のろわれた者である」（申命21・23）と書いてあるからです。パウロは、聖書の旧約聖書に書かれている神様からの律法<申命記21章22節-23節>を引用したのです。

22人が死刑に当たる罪を犯し、殺され、木にかけられる場合は、

23次の日までそのままにしてはいけません。その日のうちに埋葬しなさい。木にかけられた者は、神にのろわれた者だからです。あなたの神、主に与えられた地を汚してはいけません。

罪人である私たちは皆、死に値する犯罪者なのです。それゆえ、イエス様は十字架という木の上で、神様の聖なる掟を破った罪人である私たちが受けるべき呪いを自ら負われたのです。だから、イエス様を受け入れる私たちは自由なのです..... 言い尽くせない栄光に満ちた喜びと神様の愛を経験するために、本当に自由なのです！イエス様を信じる初期の信者たちは、神様の掟を破る呪いからの解放というこの良い知らせをもたらし、それをイエス様の話、あるいは福音と呼びました。彼らはその良い知らせの福音を宣べ伝え、アレクサンダーの征服によって世界に広まった言語、すなわちギリシャ語でその良い知らせの福音を記すために、既知の世界の果てにまで向かいました。

4 しかし、定めの時が来ると、神様は自分のひとり子を、一人の女から生まれさせ、ユダヤ人として律法の下にお遣わしになりました。

敵の戦闘機のため時宜にかなったこと

この話は入念に記録されており、戦時下であっても人間の思いやりを明らかにしています。第二次世界大戦中の西暦1943年頃、ヨーロッパで起こったことです。アメリカの爆撃機がドイツの工場を破壊するために爆弾を投下したところでした。イギリスの本拠地に戻っていました。高射砲で大きな損害を受けました。これらの銃は爆撃機から身を守るために地上に設置されていました。これらの工場はドイツ軍の兵器を製造していました。ドイツはアメリカやイギリスを含む連合軍と戦争をしていました。アメリカの爆撃機B-24リベレーターは、傷ついた鷲のように空中に留まろうとしていました。すべての防御砲が使用不能になりました。最も重要な銃はB-24の尾翼にありました。敵の戦闘機は、正確な射撃のために、低速の爆撃機の後方で一定の速度を保つでしょう。しかし、この爆撃機の尾翼にある最も重要な機銃は完全に吹き飛ばされていました。アメリカ人パイロットは敵の領土の地に不時着しないことを決めました。彼は4基のプロペラエンジンのうち2基だけで飛行機を上空に浮かせたままイギリスへ戻ろうとしていました。超低空飛行でした。燃料切れで、パイロットは高射砲の多い大都市を回ることができませんでした。緊張が高まりました。いやあ、最悪の事態です！ドイツの戦闘機メッサーシュミットが現れました。

爆撃機は無防備です。ところが予想外のことが起きました。ドイツ軍のパイロットは、自分を攻撃する銃も持たずにのろのろ進む敵機を見ました。実際、ドイツ軍のパイロットは「エース」であり、その腕前で多くの連合軍機を撃墜しました。この状況では簡単に敵機を殺せるでしょう。しかし、ドイツ軍パイロットはアメリカ人パイロットの窓のすぐ近くを飛び、翼を上下に傾けます。これは国際的な「空中の友情」のサインです。そして市街地上空を飛ぶと、ドイツ軍パイロットは戦闘機を B-24 の腹の下に飛ばしました。地上の機銃は発砲しませんでした。米軍機の下にドイツ軍機がいるのが見えたからです。この実話は、聖書の〈ローマ人への手紙 5 章 7 節-9 節〉の一節を思い出させます：

7 たとえ私たちが良い人間であったとしても、だれかが自分のために死んでくれるなどとは考えてもみななかったでしょう。

8 しかし、私たちがまだ罪人であった時、神はキリストを遣わしてくださいました。そのキリストが私たちのために死なれたことにより、神は私たちに大きな愛を示してくださいましたのです。

9 キリストは、罪人のために血まで流してくださいましたのですから、私たちが無罪とされた今は、もっとすばらしいことをしてくださいるに違いありません。今やキリストは、神の怒りから、私たちを完全に救い出してくださいるのです。

なぜドイツ軍のパイロットはアメリカ軍の爆撃機に乗っている人に憐れみを与えたのでしょうか？非武装の敵兵を殺さないことが、ドイツ軍パイロットの名誉だったのだと推測しかできません。ドイツ軍のパイロットは、高射砲が発射されるかもしれないという自分の命の危険を冒していたのです。ドイツ軍パイロットは、敵軍の爆撃機のアメリカ人を助けたというニュースは彼の本拠地にも伝わるので、自分の優れたキャリアを危険にさらしていました。しかし、第二次世界大戦の「エース」パイロットとして、ドイツ軍パイロットは大きな名声を持っていました。しかし、ドイツの支配者アドルフ・ヒトラーがこの話を聞けば、ドイツ軍パイロットは処刑されてしまうでしょう。

この人間の憐れみの実話は、〈ローマ人への手紙 5 章 7 節-9 節〉の聖書の一節のようです。

7 たとえ私たちが良い人間であったとしても、だれかが自分のために死んでくれるなどとは考えてもみななかったでしょう。

8 しかし、私たちがまだ罪人であった時、神はキリストを遣わしてくださいました。そのキリストが私たちのために死なれたことにより、神は私たちに大きな愛を示してくださいました

たのです。

9 キリストは、罪人のために血まで流してくださったのですから、私たちが無罪とされた今は、もっとすばらしいことをしてくださるに違いありません。今やキリストは、神の怒りから、私たちを完全に救い出してくださるのです。

イエス様はご自分の命を危険にさらすだけでなく、十字架上でローマ兵に処刑されるために自ら進んで命を捧げられました。

イエス様の話し

イエス様の話しは、しばしばイエス・キリストの福音またはイエス・キリストの良い知らせと呼ばれています。明日、私たちはイエス・キリストの誕生日を祝います。イエス様は常に御子なる神様として、天の父なる神様とともに天に存在していました。人類は罪を犯したので、すべての人は神様から超えられない溝によって隔てられています。神様は聖であり、義であり、聖い（きよい）お方です。罪人には罪があるから神様は交わることも、一緒にいることもできません！使徒パウロはローマ教会への手紙<ローマ人への手紙5章8節>でこう書いています：

しかし、私たちがまだ罪人であった時、神はキリストを遣わしてくださいました。そのキリストが私たちのために死なれたことにより、神は私たちに大きな愛を示してくださいました。

クリスマスの日、私たちは神様から私たちすべてに与えられた贈り物を祝います。御子イエス様の誕生は、家畜に囲まれた馬小屋でした。イエス様は天国を去り、聖母マリア様の中に超自然的な聖霊なる神様に造られ、人間の体の中に住まわれました。神様は神様の御子の誕生に多くの美と栄光をお与えになり、天使たちは神様の御子の生誕地周辺の野原で、身分の低い羊飼いたちに現れて歌いました。しかし、イエス様がクリスマスの日に生まれた目的は、<ローマ人への手紙5章8節>に記されています：

しかし、私たちがまだ罪人であった時、神はキリストを遣わしてくださいました。そのキリストが私たちのために死なれたことにより、神は私たちに大きな愛を示してくださいました。

30年後の十字架の死がなければ、イエス様の降誕された話しは、赤ん坊の誕生という色あせた美談になっていたことでしょう。私たちが大阪の駅やショッピングモールで目にする明るい光のように、イエス様の誕生日はすぐに忘れ去られてしまったことでしょう。神

様が御子イエス・キリストを遣わされたのは、私たちに対する神様の愛が永遠に続くことを意図しておられるからです。

失われた者たち!

イエス様はしばしば、神様との交わりのない罪人を「失われた者たち」と呼ばれました。イエス様は失われた者たちのために天から来られたのだと明言されました。イエス様がルカの福音書 19 章 10 節>で言われたように

イエスは言われました。「その告白こそ、今日この家に救いが来たことのあかしです。この人も迷い出たアブラハムの子どもの一人なのだから。メシヤ（救い主）のわたしは、このような人を捜し出して救うために来たのです。」

イエス様は、神様の家族の外にいる人々に、この分離の深刻さ、つまり罪人と神様との間にある超えられない溝を知ってもらうために、多くの真理を語りました。ルカの福音書にはこう書かれています。<ルカの福音書 9 章 25 節>

人はたとえ全世界を手に入れても、自分自身を失ってしまったら何にもなりません。多くの罪人が世俗的な利益による成功に焦点を当てているので、イエス様はこのことが罪びとを救えなくするという焦点になっていることを知っていました。ルカの福音書でも、イエス様は罪人は失われた硬貨のようなものであることを示しています。

<ルカの福音書 15 章 8 節-10 節>でイエス様はこう述べています。

8別のたとえで話してみましよう。女が銀貨を十枚持っていて、もし一枚なくしてしまつたら、女はランプをつけ、家の中をすみからすみまで掃除して、その一枚を見つけるまで、必死で捜し回るでしょう。

9そして見つけ出したら、友達や近所の人を呼び、いっしょに喜んでもらうでしょう。

10 同じように、一人の罪人が罪を悔いて神のもとに帰った時、天使たちはたいへんな喜びにわくのです。

私は、天国での喜びは、天国に留まるものではないと保証します。赦された罪人は真の喜びを得ます.....言葉にできない喜び、栄光に満ちた喜びを!

さて、数日前の梅田駅。大阪に 16 ヶ月住んでいるので、梅田迷路の中でも電車路線を見つける自信はあります!しかし、地下から医院を探すのはあまり得意ではありません!

ドロシーと私は道に迷いました！慣れた道を見失うと、すべてが同じように見えました。私たちは多くの人に尋ねました。ほとんどの大阪の日本人は、道案内程度の英語は話せません。しかし、地下で働く人々は、JRE という名の地上 16 階建てのビルのことは何も知りませんでした。私たちは地上に出て、たまたま通りかかった英語が堪能な人に尋ねなければなりません。実は彼は私たちの町、東淀川に住んでいたのです。彼は私たちをその医院のドアまで連れて行ってくれました。しかし、そこに着く前に『Tulley's Coffee』の看板を見たとき、私には天国に見えました！私はこの医者に診てもらったときから、『Tulley's Coffee』の看板に気づいていました。私はもう迷子ではないことを知りました！その地上の助けてくれた通行人は、私たち迷える旅人の救世主でした！

罪人は失われた者たちです。神様に向かってどんな働きをしようとも.....失われた罪人を神様の愛の腕のもとへと導くものは何ともありません。失われた罪人は神様を知らない、罪の地下に潜む他の罪人たちに導きを求めます。イエス様はこのことを「盲人が盲人を導く」と呼びました。彼らはみんな罪の地下にいます。地下の霊的状态から抜け出すためには、地上のイエス様に目を向けなければなりません。これは、ドロシーと私が梅田駅で地上に出て道を聞かなければならないようなものです。神様は、罪に対する神様の怒りを鎮めるために受け入れられることとして、イエス様の十字架上の血の犠牲を受け入れることを罪人に示されました。神様がイエス様をイースターの日曜日に、地下から、墓場から、死者の中から本当によみがえらせたとき、神様はこのようにされたのです。イエス様が十字架にかけられ、死なれてから 3 日目のことでした。さあ、罪人よ、イエス様を仰げば、あなたの罪の墓場、地下の霊的生活から立ち上がるために、あなたの霊的人生が開かれるのです。

あなたの時間

もしあなたがクリスチャンでないなら.....今があなたにとって神様の時なのではないでしょうか？神様があなたを愛し、あなたが神様によって探し出されることを望んでおられるからです。神様に近づくために良い行いをすることはできません。神様は、イエス様の十字架の御業のみを、あなたが霊的な死から命へと渡るのに完全な御業として受け入れてくださるのです。イエス様の十字架上の御業は、罪人、すなわち失われた者たちが神様へと渡るための霊的な橋を架けました。

今日が救いを受け入れる時です。

すべての人のために祈りを捧げて締めくくります。

失われたのではなく、見出されたのですが、クリスチャンもそのことを祈ります。イエス様の誕生日を祝う喜びは、イエス様の十字架上の死によって、私たちが神様に赦され受け入れられる喜びであることを、私たちクリスチャンに思い出させてくださいます。

1. まず、自分が罪人であることを認めて神様に祈りなさい。すべての人が罪を犯し、神様の栄光を受けられないからです。
2. 次に、神様に悔い改め、あるいは罪の人生から立ち返ることを告げます。もう以前のようなあんな罪深い人間にはなりたくありませんと神様に告げてください。あなたは悔い改めて神様に立ち返りたいのです。
3. そして、イエス様があなたのために死んでくださったことを受け入れます。イエス様が十字架で死なれ、あなたの罪のために神様の怒り、つまりあなたが受けるべき怒りを受けてくださったことを信じなさい。信じるだけで、あなたは救われます。
4. イエス様が十字架上で私たちの救いを完了されたことを感謝しなさい。イエス様が十字架上であなたのためにすべてを成し遂げてくださったことを信じるだけでいいのです。イエス様があなたのためにしてくださったことに、あなたは付け加えることはできません。あなたが最も罪深い罪を犯しているときに、イエス様はあなたのために死んでくださったのです。
5. 喜びなさい！ これはクリスマスであり、イエス様の誕生日であり、あなたがイエス様を信じて新しく生まれ変わるあなたの再誕生日です。

祈りましょう、.....